

平成27年度 尼崎市立武庫庄小学校 学校評価

実践目標	取り組み項目	具体的な手だてと成果・課題 ◎効果があつた実践 ■改善をすべきこと ★新しくやるべきこと	来年度に向けての改善策	職員自己評価 平均(4段階)	評定	学校関係者評価 評価内容・評定の妥当性、意見
自立して自ら学び続ける力を育てる ～未来を切り拓くために～ 授業やカリキュラムを工夫し、将来に向けて自主的・意欲的に学ぶ態度や課題解決能力を育成する。	①学習の見直しを立てたり、学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れ、主体的・自立的に学ぶ態度を育む。 ②目標・内容・つきたい力を系統立てた総合的な学習の時間のカリキュラムを整備し、探究への意欲や課題解決能力を育む。 ③キッズサイエンス等で、学習意欲や興味、関心を高めるような長期休業中の学習活動を充実させる。	◎朝の学習による計算力の向上などはよい取り組みである。 ◎各教科見直しをもち、学年でも話し合いながら計画的に進めることができた。 ■各教科や総合的な学習の年間計画は、目的や内容など再検討した方がよい。 ◎週案を立てて、計画的に授業を進めるように努めた。 ◎わかる授業を考えたつもりでも、理解が浅い子どももいる。そういった子には個別指導する。わかるようになれば自信をもち、意欲につながる。 ◎授業の導入を工夫することで、子ども達の意欲が増した。 ◎学習カードやワークシートなど意欲的に取り込めるよう工夫できた。 ■総合的な学習の時間のカリキュラムの整備、学習の内容はまだ不十分である。 ◎各学年で学習会に取り組むことで、家庭学習の習慣が身に付いていない児童の支援ができた。 ◎夏季休業中の学習会で1学期の復習がしっかりとできた。 ◎キッズサイエンスは子ども達が意欲的に取り組むことができていたのでよかったと思う。	■3、4年生の計算タイムでは、計算科(そろばん)の学習を充実させていく中で、必要に応じて算数の計算練習も取り入れていくなど柔軟な取り組みを進める。 ★「総合的な学習の時間」の各学年のカリキュラムとつきたい力を今年度内に整理し、来年度初めに提案、周知し、実施していく。 ■「夏休み学習会」は7月末まで(28年度は29日(金)まで実施する。	2.9	B	職員自己評価は厳しすぎる。評定Bは妥当である。 ・夏休み学習会に参加する児童へのアプローチや参加への意欲づけが大切である。 ・学習に集中して取り組むようなカリキュラム作りや工夫が必要である。 ・新一年生の児童や保護者に幼稚園との違いや小学校での方向性や態勢作りを明確にした方がよい。 ・「総合的な学習」は大切であるが、毎年課題が積み残されている。 ・夏休み学習会は、イベント的な内容よりも基礎学力の充実に向けての学習会の方が保護者にとってありがたい。 ・中学校での不登校は学力が低いことが要因となることがある。小学校でしっかり学力をつけておくことが大切である。
全ての領域で「ことばの力」を高める活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。	①ペア・グループ・全体と、目的に応じて学習形態を工夫した話し合い活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ②子ども自身が自ら話し合いたい、考えたい、調べたい、伝えたいと思えるような課題や場の設定を工夫する。	◎朝のスピーチ、発表や話し合いの場を設けることにより、子ども達が思考することは増えたように思う。 ■授業中の発表がごく一部、限られた子にかたよりつつあるので、まだ改善策を考えないと思う。 ■話し合い活動に積極的に参加できる子、そうでない子に分かれており、積極的でない子の「言葉の力」を高める手だてについて考える必要がある。 ◎3人グループでの話し合いを取り入れたところ、中心になる子が声をかけ、みんながグループの中で一定の発表ができるようになってきている。 ◎学習に応じて学習形態を工夫し、意欲的に学ばせることができた。 ◎グループトークをたくさん取り入れた。 ◎授業中の発表は苦手でも終わりの会の司会などはりきることがある。そういうときにほめて、自信をもたせる。 ◎ペア活動を増やしたことで効果はあった。 ◎書く活動を多く取り入れることができ、苦手な子どもも自力で取り組めるようになってきた。 ◎コンピュータ室を積極的に活用し調べ学習を行った。意欲的に学習していた。 ◎朝の会のスピーチタイムで自分のことを話す機会を作り、回を重ねていくうちに、それぞれの児童の成長が見られた。 ◎グループ学習によって、普段発言の少ない児童も自らの言葉で学習内容を工夫することができた。	■一人学習、ペア活動、グループ活動、全体学習と学習のねらいに応じた工夫と改善に取り組む。	3.0	B	評価・評定は妥当である。 ・様々な学習形態の工夫により、言葉の力を育ててほしい。 ・全員に発表させる力をつけるのは難しい。
学力実態を分析し、学力向上に組織的に取り組む。特に、家庭との連携を強化し、自立的な学びの習慣化を図る。	①学力実態の分析や、学力向上プラン実施について、学力向上委員会を中心として組織的に取り組む。 ②家庭との連携を強め、自立的な学びの習慣化に徹底的に取り組む。 ③ノートのとめ方、予習・復習の仕方など学習方法の指導にも力を入れ、自立的な学びを奨励する。	■自主学習に取り組ませることがなかなかできなかった。学年に応じてどのように取り組めばよいか、どんなことをすればいいのか検討が必要。 ★学年初め等にノートのとめ方や予習、復習のモデルを児童に指導しし、保護者にも伝えてはどうか。学年でよく話し合い、できるだけ同じ歩調で進められるようにする。 ◎一学期にノート書き方を指導し、見やすいノート作りをさせた。 ■与えられた宿題をすることはできているが自主的な学びではないので何か手だてを打っていきたい。 ◎家庭との連携ができており、同じ方向で指導できていると思われる。 ◎生活点検を通して家庭での学習がしっかりと確保されるようお家でも振り返りを記入してもらっている。 ★放課後に個別指導するなどして、基礎学力の充実に力を入れたい。 ■学力向上のプランについては、もう少し組織的な取り組みが必要。	★家庭学習と自主学習の充実に向けて、「学習の手引き」の作成を考えていく。	2.7	B	評価・評定は妥当である。 ・塾、習い事等のない子どもにとっては学校の宿題だけでは少ないと感じる。 ・授業、宿題ともに丁寧に取り組んでもらっている。 ・小学校では予習をさせるのは難しい。復習のさせ方はわかるが、予習は何をすればいいのかわかりにくい。「学習の手引き」に教科毎の予習の仕方をあげてほしい。 ・自主学習である「自由研究」などは、長期の休業日(夏、冬、春休み)にしか取り組めない。
豊かな心を育てる ～未来をよりよく生きるために～ 夢や自尊感情を持たせ、自己実現の意識を育むとともに、家庭や地域と連携しながら規範意識や自己指導能力を育成する。	①夢や目標を常に意識させる仕掛けを工夫する。 ②体験的な活動を充実させ、チャレンジして乗り越えたときの達成感や充実感を味わわせる。 ③自分や他人のいいところを見つけ、学年を越えた活動、地域との協働など、他者との関わり合いの機会を増やしていく。 ④内省による自己指導能力を育てる方向で生活点検を活用していく。	◎ペア学年、学級との交流が多く高学年に感謝の気持ちや親しみをもつことができ良かった。 ◎友だちの悪いところを伝えることが多かったのも、良いところも伝えるように言うのがんばっていたことを伝えてくる子が増えた。 ◎学習で他人の作文のいい所を見つける活動で、具体的にほめることができる児童が増えた。 ◎終わりの会でがんばっていた友達を発表し合う。 ◎生活点検が子どもも保護者も意識して生活の見直しができるので良いと思う。 ◎企業の方に仕事内容を話していただいたり、体験活動をさせていただいたりすることで働くことへの意識をもたせた。 ◎あゆみを渡すとき、時間をかけて一人一人をほめる。そのためには一人一人ががんばっているところをよく見ておく。 ◎二分の一人成人式をはじめ、総合の時間に多くの体験的活動を取り入れることができた。 ◎行事の多い高学年は、次々と目の前の小さな目標をクリアしていくことで達成感を味わい次へとつながると感じることも多かった。 ◎各学年の行事や取り組みが豊かな心を育てていると思います。	■生活点検は毎月第2週に行っているが、祝日、代休日等で4日、3日しかない週もあるので、月～金まで5日間きちんとできる週に行うなど柔軟に取り組む。	3.0	B	評価・評定は妥当である。 ・規範意識を育てるためには、地域で見られているという地域の教育力が必要である。 ・やっではないけないこと(遊びの場所やキャッチボール、サッカー遊び等)への意識が大人に足りない。 ・生活点検は、高学年はどうしてもマンネリ化してしまう。月毎に内容を一部変えるなど、項目に一工夫が必要である。

実践目標	取り組み項目	具体的な手だてと成果・課題 ◎効果があった実践 ■改善をすべきこと ★新しくやるべきこと	来年度に向けての改善策	職員自己評価 平均(4段階)	評定	学校関係者評価 評価内容・評定の妥当性、意見
豊かな心を育てる ～未来をよりよく生きるために～ 他者や自然とふれあう機会を増やし、命を尊ぶ心やよりよい人間関係を築く力を育成する。	①ビオトープを活用し、授業で意図的に使ったり、関わらせたを尊ぶ心やよりよい人間関係を築く力を育成する。 ②あいさつの在り方について共通理解を図り、一貫した指導を行う。	■ビオトープをあまり活用できなかったので、活用方法を考えていきたい。 ◎委員会を中心にビオトープの年間運用の見直しを立てることができた。 ◎学年園や植木鉢での栽培等の活動による自然とのふれあう機会が設けることができた。 ◎あいさつ週間で子ども達もさらに意識してあいさつするようになった。 ■あいさつができる児童が少ない。年間の重点目標があまり意識されていない。 ◎あいさつ週間のアンケートで具体的に顔を見るとか、大きな声でなど普段のあいさつの仕方をふり返れてよかった。 ■もっと教師の方から明るく、笑顔で大きな声で「おはよう！」と言う。 ◎あいさつの意義について道徳の時間にみんなで考えた。 ■あいさつが自分からできる子を育てる。 ■あいさつについては、6学年一貫してさらなる指導が必要と感じる。 ■自らあいさつできる子を育てる。朝の校門でのあいさつを職員も行っていく。職員室への入退室の仕方を徹底する。 ◎校門に立ちあいさつをしてみると、目を見てあいさつする児童が多いと感じる。いつも校長先生はじめ生徒指導の先生方が継続してあいさつをして下さっているからだと思う。	★ビオトープを活用できる教科・単元・活動を来年度提案する。管理に関しては委員会を中心とした活動と保護者や地域の人材活用なども視野に入れたビオトープボランティアについて検討する。 ★ビオトープをどのように授業に活用することができるか、わかりやすい資料を作り、共有していく。 ★来年度は朝のあいさつ当番を職員交代で当番を決めていく。さらに、生徒指導、各学年学級で呼びかけをし、登下校時以外にもあいさつできる雰囲気作りに努める。 ★是非来年度は、「あいさつ運動」を4月当初から取り組んでいきたい。 ■あいさつ週間は立つ人を少なくして、回数を多くする方向を考えていく。	2.4	C	評価・評定は妥当である。 ・外来者に対してはこちらからあいさつをした時にしかあいさつが返ってこない。 ・保護者同士ももっとあいさつを交わすべきだ。 ・保護者や地域の人が地域で積極的にあいさつを交わすなど子どもの見本となり、あいさつの習慣づけを図っていくべきだ。 ・粘り強く取り組みれば、子ども達はあいさつをするようになる。
健やかな体を育てる ～未来をたくましく生き抜くために～ 家庭や地域と積極的に連携して食育をより充実させ、健康な体づくりにつながる望ましい生活習慣を育成する。	①系統性を意識した学年毎の食育カリキュラムを作成する。 ②給食の献立に関する情報を毎日児童に提供し、食や健康に関する意識の向上を図る。 ③食に関する情報を親子で同時に共有できるような機会を工夫する。(例えば親子合同の講演会や講習など)	◎ランチルームでの食育授業や育てた野菜を調理したことによって、子ども達の食、健康に対する興味をもたせることができた。 ◎ランチルームに行くと楽しみながら勉強することで、食に対する興味やお昼の放送を聞く意識が高まった。 ◎給食の献立に関する毎日の放送は内容が興味深くとても良かった。最後に調理師さんへ感謝し、残さず食べようというメッセージも良かった。 ■遅い時間に一人で食器を返す子が多い。その際に牛乳びんを割ったり、食べ残しをこぼしたりする。 ★できるだけ一人で返さない工夫ができないか。 ◎給食は食缶、牛乳とも全体的な残食はゼロ。食べる量が増えたという子もいる。 ◎ランチルームで豆つかみをする事によって、はしの使い方を見直せた。 ◎5年生を通して米作りの学習をし、興味をもって取り組めた。 ◎出前授業など各学年食育授業がきちんと取り組んでいると思う。	■給食の返し方を柔軟に考えながら、共通理解していく。 ■出前授業の内容を検討する。	3.3	A	高い評価・評定であるが妥当、同感である。 ・4年生のそら豆を使った食育の学習はとてもよかった。自分で育てる → 収穫する → 料理する → みんなで食べるという活動に子ども達も老人会も楽しく取り組めた。
自らの身体や健康について関心を持たせたり、計画的な体育・スポーツ活動を通じて運動する楽しさや喜びを味わせたりすることにより、体力の向上や健康の増進を図る。	①体育のカリキュラムの系統性を再検討する。 ②休み時間に、外遊びを奨励するはたらきかけを学校全体として取り組む。 ③交通安全協会の指導のもとに、自転車教室を3年生対象に実施する。	◎みんなあそびの日(外)を決め、週三回子ども達が休み時間、外で過ごすことができた。 ◎ふえ鬼大会をすることで意欲的に運動場へ出る子が増えた。 ◎体育委員会中心のおにごっこがよかった。チャレンジなわとびの取り組みがよかった。 ■特に冬場は外遊びに出がらず、教室や廊下にとどまる児童が目立った。 ◎学年でマラソン大会やドッジボール大会を企画し、競いながら楽しめる学習の機会を作った。 ★なわとび大会は1学期クラスの団結力を確かめたり、高めるのに有効ではないか ■体育部や各学年で時期や内容についてカリキュラムを再検討する時間をとった方がよい。 ★マラソン、なわとびなど行事のための運動で終わらず、自主的に続けていけたらいいと思う。	■マラソン大会は全学年で共通した取り組みをまとめていく。 ■チャレンジなわとびは継続して取り組んでいく。時期や内容(低学年も長縄にチャレンジするなど)は検討していく。 ■◎全校ふえ鬼大会などを実施することで子ども達の意識も変わっていくと思う。もう少し回数を増やすことを検討する。 ★体育の来年度のカリキュラムを3月中に検討しておく。 ■夏季休業中の水泳指導は7月末(28年度は29日(金)まで実施する。	2.9	B	評価・評定は妥当である。 ・引き続き体力作り、外で遊ぶような全校的な取り組みを続けてほしい。
信頼され魅力ある学校をつくる ～未来に向けた地域協働のために～ 保護者・地域・関係機関とともに学校の防災・防犯体制を強化し、安全安心な学校づくりを行うとともに、子どもにも危険予測能力や危機回避能力を身につけさせる。	①火災や地震を想定した防災訓練を計画的に実施する。 ②ケータイ(スマホ)や、ネットとの正しい関わり方を学ぶ講習や講演会を親子で受ける機会を作る。 ③交通安全協会の指導のもとに、自転車教室を3年生対象に実施する。	◎訓練等が計画的に実施され、「今日は〇〇を想定した訓練です。実際にこんな災害が起こりました」とお話しされるので、子ども達にも避難訓練の必要性が分かりやすいと思う。 ◎防災訓練がきちんと行われている。児童も意識している。 ◎自分の体験や東日本大震災の体験談を話すことで、子ども達が訓練に熱心になった。 ■避難経路の確認(火事の時どこを通るか、階段が混雑して使いづらい)が必要である。 ◎情報モラル講演会がよかった。低学年には内容が難しかったが、「恐い」と口々に言っていたので、使い方によっては危険ということを感じられたようだ。 ◎スマホ・ゲーム機の講習はこれからも継続してほしい。 ◎自転車教室はとてつよい。◎ネット講習会はとてつよい。	★引き渡し訓練を1学期にする。引き渡しカードを工夫、改善する。 ■不審者対応についての防犯訓練(職員)をする。 ★ケータイ(スマホ)の使用開始年齢は低年齢化してきており、高学年で持っている子も多い。使い方に関する情報モラルの充実にも努める。	2.9	B	評価・評定は妥当である。 ・出火場所による避難経路の確認は大事なことである。実際火事が起こったときには、命を守ることになる。 ・日は決めるもののいつ火災が起こるかわからないという訓練や、休み時間の訓練等、一度やってみてはどうか。 ・避難訓練には地域の消防団も協力できる。 ・家庭でお金の使い方や管理の仕方を子ども達に指導すべきである。電車の中でのマナーなども気になる。
積極的に情報を発信して保護者や地域とのつながりを深めるとともに、学校評価を活用してPDCAサイクルに基づいた改善と結果公表を行い、魅力ある学校づくりを行う。	①学校の方針を積極的に打ち出し、寄せられた意見をチェック・分析して改善に役立てる。 ②参観・懇談、オープンスクール、学校・学年通信、ホームページ等を効果的な情報発信の場ととらえ、積極的に活用する。その際、個人情報の保護に注意を払う。	★保護者アンケートでは一つ一つの項目が大まかすぎるものもある。 ◎家庭への情報発信がしっかりできています。 ■ホームページを充実させるべき ◎個人情報保護の点からも、音楽会のビデオ撮影禁止、販売なしの選択はよかった。 ■オープンスクールがイベント化しないように考えなければいけないと思う。 ◎スマホ・ネットについての講演会は昨年聞いたはずでもまた新しい情報が聞け、継続していきたい取り組みだと感じた。	◎オープンスクールを1月の土曜日に実施する。	2.9	B	評価・評定は妥当である。 ・オープンスクールを土曜日に実施してもらってよかった。 ・オープンスクールで給食の様子など見てみたい。
教職員一人一人がプロの教師としての力量を高めながら、共に高まり合う研修を行う「学び続ける組織」であることにより、保護者や地域から信頼され共に伸びる学校を目指す。	①急激な世代交代に備え、優れた講師を招聘したり、ベテラン教職員が指導技術を伝承したりするなど、若手教職員の育成を中心に学校全体で学び合う機会をつくる。 ②特別支援教育等、課題に応じた研修会をもつ。 ③若手教職員による学年を越えた勉強会や、さらに他校の日常的な授業を見る機会など、研修の幅を広げる。	◎研究授業、公開授業が多くあり、学ぶことが多くあった。 ◎校内研究授業を中心に学び合った ■もっと積極的に研修に参加すればよいと思う。 ■ベテラン教員の普段の授業をもっと見に行けばよかったです。 ◎夏休みに特別支援教育の研修会があって良かった。 ■地域の行事等に参加する職員が少ないように感じます。	★一人一授業公開(職員同士)する。 ■地域の行事に積極的に参加する。	2.6	B	評価・評定は妥当である。 ・一人一授業はよいことだ。教員同士で授業を見合って、検討し合う授業研究はとても大切だと思う。